

上越の教育から学ぶ

県外教育関係機関研修報告・座談会



10月31日（火）に、県外教育関係機関研修報告・座談会が開かれました。当日は、上越への視察研修参加者20名を含め、60名を超える参加者があり、とても活発な意見交換が行われました。内容は以下の通りです。

1 全体会 I

- (1) 開会
- (2) 上伊那教育会長あいさつ 矢澤 淳 会長
- (3) 視察研修の概要説明 佐々木英明 先生
(伊那小学校)

2 座談会

※8つのグループに分かれての分散会

3 全体会 II

- (1) 各グループで話題になったことの発表
- (2) 各グループ記録係
- (2) 副会長あいさつ 飯澤 隆 副会長
- (3) 閉会



矢澤 淳 教育会長挨拶

上伊那教育会では4年前に、新規事業「県外教育関係機関研修」を立ち上げ、県外の教育実践を実際に見て、そこから自らの実践を見返すため、志をもつ先生方を募り研修視察を続けています。この研修は会員自身の主体的な研修ではありますが、学んだことを広く会員の皆様方にも還元するという使命を持っています。

本年度の視察研修先は、会員に希望を募り、希望が多かった上越市の大手町小学校と城北中学校に学ぼうと、20名の視察研修団で研修して参りました。視察先の大手町小学校や城北中学校は、独自の教育実践を行って、内外から評価を受けている学校です。

まさに「百聞は一見に如かず」・・・参加者それぞれに、子どもや学校、先生方の生の姿、授業の実際に触れ、感銘をもち、自らの日常の取り組みに重ねながら、学んできました。すでに、自校の先生方に紹介したり、授業改善に取りくんだりしているとお聞きしております。

本日の報告座談会は、先ほど述べたように、その学んだことを、広く、より多くの会員の皆さんに、還元する場です。今年も60名以上の参加者があり、これほどの関心をいただきましたことに対し、ありがたく、また大変嬉しく思います。

つい先日配布されました「上伊那教育135号」には、16名の先生方の報告レポートが掲載されました。また本日のプレゼンと座談会の様子については、次号の「上伊那教育」136号に掲載させていただくこととなっております。本日参加できない先生方にも参考にしていただきたいと思いますと思っています。

私は、福井・富山そして今年の上越と、3回この研修に同行させていただきました。私は3回の研修から、上伊那の教育理念「はじめに子どもありき」「限りなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」は間違いのない道であることを確信しました。

本日は、報告座談会ではありますが、先生方ご自身が、今現在抱えている悩みや課題、また取り組み状況の実際を語っていただき、目の前の子どものため、自分自身の今後の実践のため、お土産を一つでもお持ち帰りいただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

座談会で話題になったこと

○Aグループ

- ・全職員が同じ方向に進んでいるすばらしさがある。迷ったときには、子どもの姿から職員で話し合い合意をして進めていくやり方に感心した。

○Bグループ

- ・総合的な学習の時間で学年ごとに内容は決まっているが、ゴール目指してやっている。その中で過程を大切にしていることがよくわかった。毎日の振り返り、月末の振り返りを見返していることは素晴らしいと思った。

○Cグループ

- ・児童会がない、運動会がないというのは、自分の学校なら不安である。やらない人が出てきたら困るのではないかという疑問はもつが、子どもたちが主体的に動くには、そうした行事や活動の見直しも大切なのかと思った。

○Dグループ

- ・子どもたちの主体性を大切にするのは難しい。毎年その学年が同じ活動をしていても違った面が出てくる。授業の評価は難しいと思った。そのなかで、地域との連携がすばらしいと感じた。

○Eグループ

- ・カリキュラムの大切さを感じた。子どもの主体性ということはわかるが、教師もよく見ていないといけないのではないかという疑問も出された。

○Fグループ

全教師が戻る原点がある。子どもの意識を大切にしてカリキュラムの見直しをしていること。教師の意識の連携がすばらしいこと。カリキュラムを中心に進めていることなど。

○Gグループ

- ・カリキュラムが、子どもたちにも見えているということが大切だということが話題になった。その中で、ICTを有効に使うことがさらに大切であると感じた。

○Hグループ

- ・体験が大事ということが話題になった。小学校では総合的な学習の時間で、テーマを決めるよさ、決まっているよさはどちらもある。中学校ではキャリア教育の取り組み方で、上伊那では、キャリアフェスがあるということで、それも大切にしていきたいと思った。



